

9月16日（土） 12:45-13:45

第5会場

堆積地質部会ランチヨン

本日の内容

1. 部会長ご挨拶：横川
2. 部会幹事からの報告
 - ・ 庶務：北沢・太田
 - ・ 各賞選考：狩野・高野
 - ・ 編集：石原
 - ・ 行事：西田
 - ・ ML：野田
3. セッション報告
 - R9 堆積岩の起源：太田
 - R10 炭酸塩：山田
 - R11 堆積過程：（酒井）
 - R12 石油石炭：千代延
4. 関連学会・シンポ情報
 - ・ 連合大会：清家
 - ・ 炭コロ：山田
 - ・ 堆積学会：石原
 - ・ 有機地化シンポ：三瓶
 - ・ ISC2018：（小松原）
5. その他
 - ・ 125周年記念号：保柳
 - ・ 夜間小集会アナウンス

司会：北沢

1. 部会長ご挨拶

部会幹事

- ・ 部会長：横川美和（大阪工業大）
- ・ 庶務：北沢俊幸（立正大） ・ 太田 亨（早稲田大） ←（渡邊剛，北海道大）
- ・ 行事委員：西田尚央（東京学芸大）
- *石油石炭セッション行事委員：島津 崇（石油資源） ←千代延仁子（石油資源）
- ・ 各賞選考：狩野彰宏（東京大） ・ 高野 修（石油資源開発）
- ・ 編集委員：石原与四郎（福岡大） ・ 藤野滋弘（筑波大）
- ・ 幹事ML：野田 篤（産総研） ・ 小松原純子（産総研）

< 幹事の任期と交代 >

- ・ 任期：2-3年（重任可）
- ・ 交代：後任を自分で探して打診，了解を得て，代表+幹事会に連絡，地質学会ランチョンで交代.

セッション世話人

R9 堆積物（岩）の起源・組織・組成：

太田 亨（早稲田大）・野田 篤（産総研）

R10 炭酸塩岩の起源と地球環境：

山田 努（東北大）・足立奈津子（鳴門教育大）

R11 堆積過程・堆積環境・堆積地質：

酒井哲弥（島根大）・高野 修（石油資源開発）・

松本 弾（産総研）

R12 石油・石炭地質学と有機地球化学：

千代延俊（秋田大）・千代延仁子（石油資源開発）・

三瓶良和（島根大）

2. 部会幹事からの報告

各賞選考（狩野・高野）

- ・2016年は部会から2件の推薦を行った。
- ・2017年もまた部会から推薦を行う予定なので、皆様のご協力をお願いしたい。

行事委員（西田）

1. 招待講演

- ・ R9 堆積物（岩）の起源・組織・組成: 1件
- ・ R10 炭酸塩岩の起源と地球環境: 1件
- ・ R11 堆積過程・堆積環境・堆積地質: 1件
- ・ R12 石油・石炭地質学と有機地球化学: 1件

2. ハイライト講演

- ・ R9 堆積物（岩）の起源・組織・組成: 1件
- ・ R10 炭酸塩岩の起源と地球環境: 3件
- ・ R11 堆積過程・堆積環境・堆積地質: 3件
- ・ R12 石油・石炭地質学と有機地球化学: なし

3. 他学協会との共催

- ・ 共催団体の会員は共催セッションに限り発表申込が可能
- ・ 共催団体会員の参加登録費は地質学会正会員と同額

→全てのセッションで「日本堆積学会」「日本有機地球化学会」「石油技術協会探鉱技術委員会」より共催の承諾

来年度の学術大会

場所：北海道大会（札幌）

日程：2018/9/5（水）～9/7（金）

*平日開催

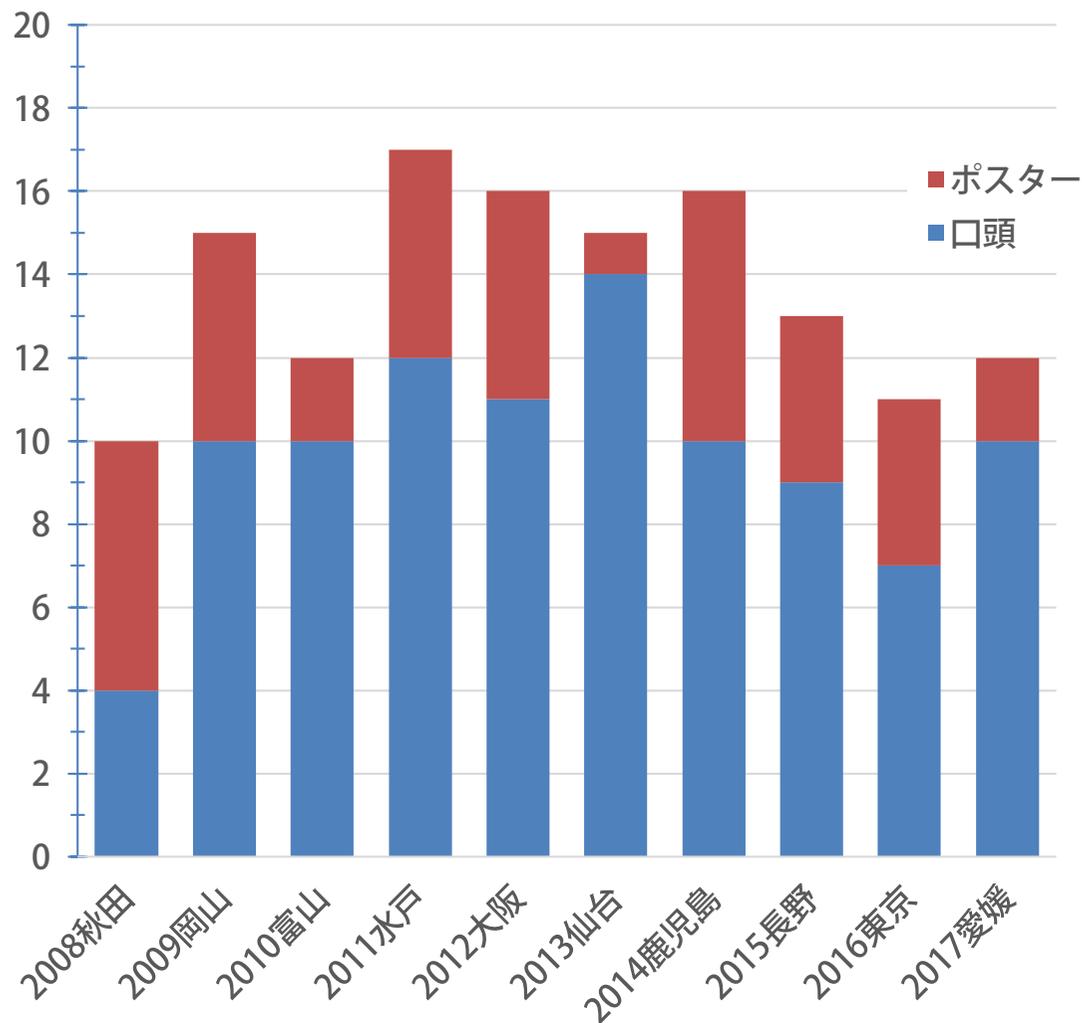
3. セッション報告

R9 堆積物（岩）の起源・組織・組成

- ・9/16の午前中に、招待講演+口頭発表3件、
午後にポスター発表8件が行われた。

R10 炭酸塩セッション2008-2017

炭酸塩セッション講演数の推移 (2008-2017)



R11 堆積過程・堆積環境・堆積作用

世話人 酒井哲弥 (島根大)・高野 修 (石油資源開発)・
松本 弾 (産総研)

今年度の申し込み件数 口頭 7件 (招待講演 成瀬氏)
ポスター 18件

桜上水大会では 口頭17件 ポスター16件
件数は昨年からやや減少

長野大会では 口頭12件 ポスター17件

セッションが開始して3年目 講演数はそれなりに維持

世話人からは次年度もこのセッションを継続することを提案

*このセッションは台風のため中止になりました。学生のみ、翌日の特別セッションで発表を行いました。

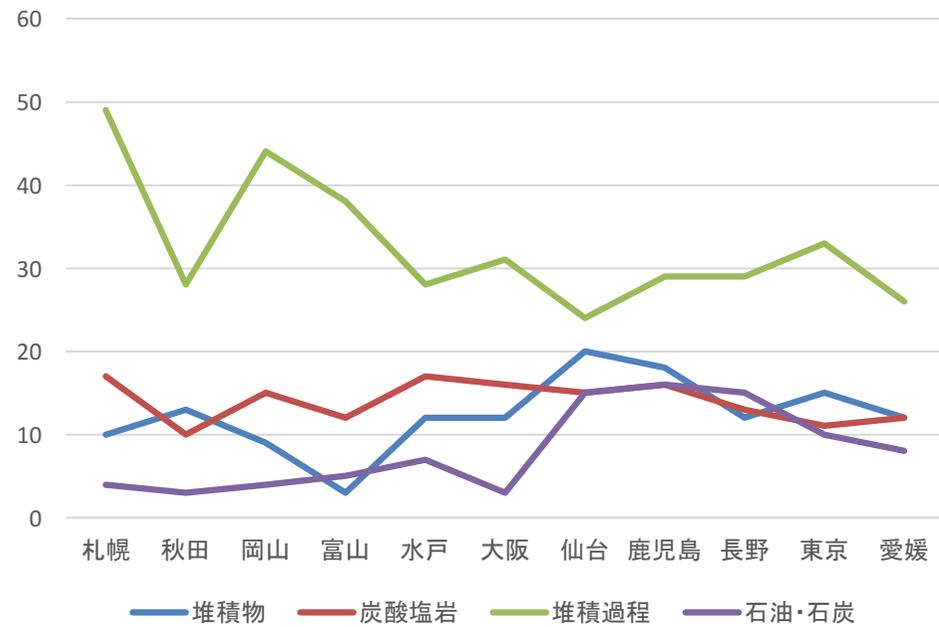
セッション報告

石油・石炭地質学と有機地球化学

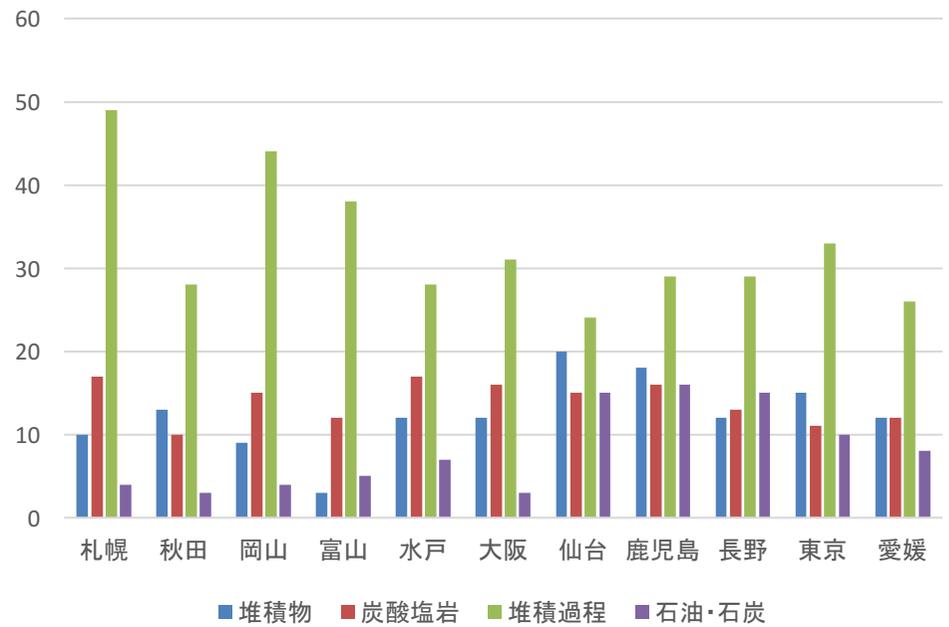
千代延 俊

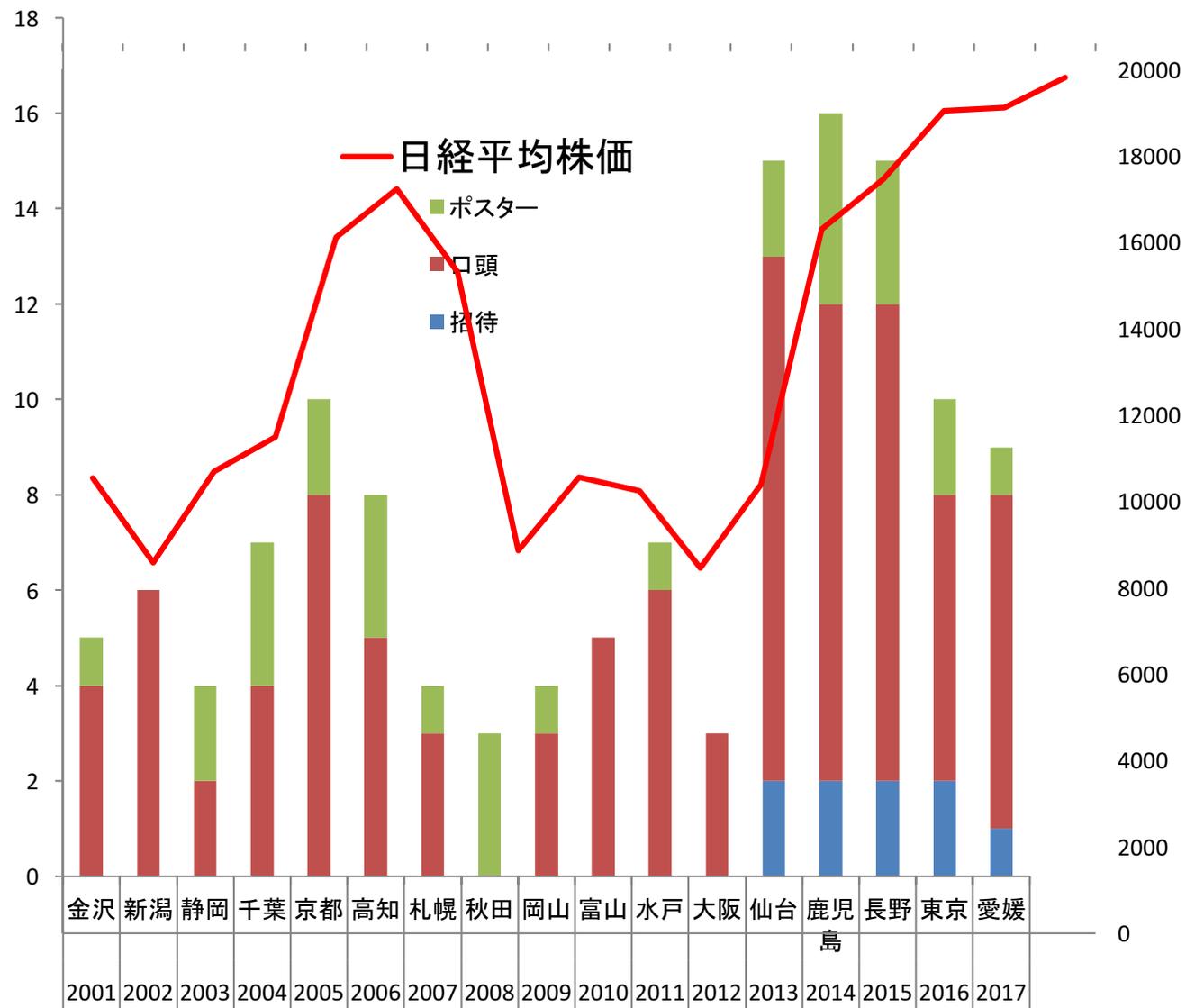
秋田大学国際資源学部

堆積部会発表数推移



堆積部会発表数の推移





4. 関連学会・シンポジウムの 報告, 案内

JpGU 連合大会（清家）

2017年堆積関係セッション（AGU との Joint Meeting）

- 堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動
- 津波堆積物
- デルタ（三角州）：複雑系への学際的アプローチ
- 混濁流:発生源から堆積物・地形形成まで
- Morphodynamics and Genetic Stratigraphy for Understanding Landforms and Strata

2018年の予定

- 日時：5月20日(日)–24日(木)
- 会場：千葉県幕張メッセ

炭酸塩コロキウム2017

開催日:2017年3月8日~10日

場所:東北大学川渡共同セミナーセンター

(宮城県大崎市鳴子温泉字原75)

参加者:17名(申し込み19名)

講演数:口頭14件

炭酸塩コロキウム 2017 in 川渡



2017年3月8日~10日
東北大学川渡共同セミナーセンター

炭酸塩コロキウム2018

開催地 未定(西日本の予定)
日時 未定(3月上旬から中旬?)

堆積学会

- 目次
 - 堆積学スクール
 - 秋田大会
 - 堆積学会功労賞
-
- WPSM
 - 夜間小集会

堆積学スクール

<タイトル> 「第四紀サンゴ礁性堆積物と構造運動」

<実施内容>

琉球列島に分布するサンゴ礁性堆積物の岩相と堆積環境，構造運動とサンゴ礁発達史，ならびに炭酸塩続成作用について，講義，野外観察，コア観察を通して学習する。

<講師> 松田博貴氏（熊本大学）

<日程> 平成29年11月2日（木）～4日（土）

<募集人員> 20名（最低催行人数2名）

<費用（2泊3日宿泊代・夕食費込）> ※参加人数・会員区分により変動します。

学生・院生会員 10,000～15,000円程度 会員一般
30,000～40,000円程度

非会員学生 15,000～20,000円程度 非会員一般
40,000～50,000円程度

日本堆積学会秋田大会

日程：2018/3/25-27

* メルマガ768号(2017/11/6配信)で第0報が出ています.

- ・3/25(日)イベント:コアワークショップ, 津波堆積物のワークショップ
- ・3/26(月)~27(火)口頭・ポスター発表, 総会, 懇親会等
- ・3/28(水)巡検:男鹿半島を予定

日本堆積学会功労賞

受賞対象者

堆積学の発展あるいは、日本堆積学会の設立・運営に貢献された方

推薦受付（予定）

10月から受付を開始

※メールマガジンで配信します

* 10/31で締め切りました

堆積学関係の学会・シンポ情報&報告 (三瓶)



「有機地球化学シンポジウム」

1. 報告

第35回有機地球化学シンポジウム(2017高知シホ°)

2017年8月29日(月)～31日(火); (於)高知県立大, 高知コアセンター

世話人: 高知大 池原, JAMSTEC 井尻, 高知県立大 一色

(2018は東京海洋大の予定)

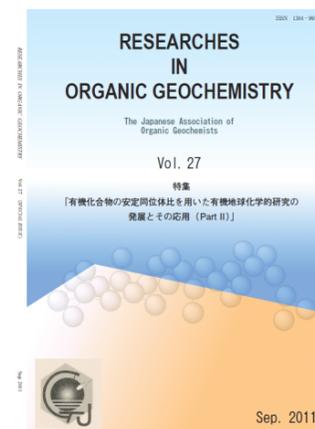
2. その他

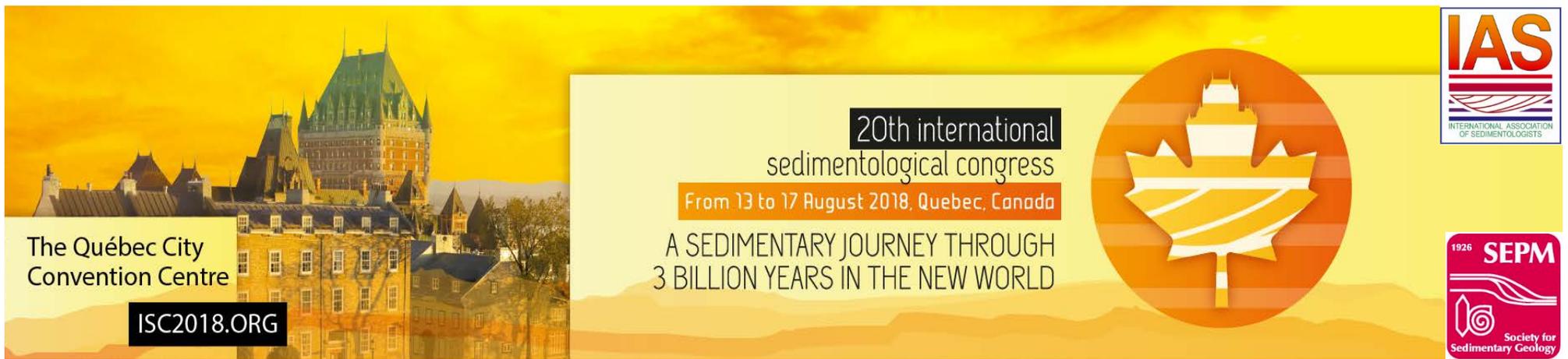
◎本学会の年会費は格安です(正会員:年額2000円, 学生会員:年額1000円)。
ただし, 来年度からは1000円アップされる予定です。

堆積学・古生物学等にも有用な情報が得られますので, 是非, 入会をご検討ください。

◎学会誌ROG Vol.1号(1976)から32号(2016)までをPDF公開中です。
学会HPをご覧ください。

◎ROG特集号を販売中です(一冊3000円)。
学会HPをご覧ください。





20th International Sedimentological Congress

2018/08/13-17 Quebec, Canada

Call for papers begins 2017/11/06

Abstract submission deadline 2018/03/19

Subscribe to the ISC 2018 newsletter

>>> isc2018.org

2018 Western Pacific Sedimentology Meeting

日時：2018年3月19-24日（会議：3/19-20、巡検：3/21-24、3/18夕方：アイスブレイカー）

場所：韓国光州市（Gwangju, Korea） Chonnam大学

主な予定セッション：Geohazards and Sedimentation, Sedimentology in Continental Margins, Paleoclimate and Sedimentary History, Sedimentation and Basin Tectonics, Depositional Processes, Sedimentary Facies, and Strata Formation, Volcano-sedimentology

参加費：

会議 一般200,000ウォン（約19,940円） 学生150,000ウォン（約14,960円）

巡検 潮間帯+白亜系500,000ウォン（約49,850円）

潮間帯+火山砕屑岩560,000ウォン（約55,832円：済州島までの片道航空券込）

主な日程：

<https://2018wpsm.wixsite.com/home>

アブストラクト投稿開始：2017年11月1日

アブストラクト投稿締切：2018年1月5日

巡検・会議参加登録開始：2017年11月1日

巡検・会議参加登録締切：2018年1月5日

**基金運用委員会で若手
会員の学会参加補助を
行います！**

5. その他

日本地質学会125周年記念地質学雑誌特集号

特集号タイトル	堆積学, 堆積地質学の日本における進展と展望, 最近25年を中心として (仮題)
特集号世話人氏名	保柳康一, 横川美和, 松田博貴, 後藤和久
代表世話人と連絡先 (所属先, 電話, FAX, e-mail等)	保柳康一 信州大学学術研究院理学系 Tel : 0263-37-2482, Fax:0263-37-2506 E-mail: hoya101@shinshu-u.ac.jp
本特集の趣旨(意義・ 目的)・経緯	<p>堆積物と堆積岩に関わる研究は, 1990年以降, 様々分野で大きな進展をみた. 例えば, シーケンス層序学的手法の広がり, また, 実験堆積学の地層研究への応用, 炭酸塩岩に関わる環境と成因研究, 機器分析の発達による碎屑物研究の進展, イベント堆積物に関する認識の向上などが上げられる. 特に, イベント堆積物のうち津波堆積物については, 2004年のスマトラ地震, 2011年の東日本大震災による大津波発生を受けて, 日本の研究は世界をリードすることになった.</p> <p>このような, 最近25年の研究の進展と成果を分野毎にレビューして, 今後の研究発展について展望したい.</p>

特集号の構成(個々の論文の著者・タイトル・和文要旨・見込み印刷ページ数および著者の資格(会員・非会員))

- 1) 特集号の意義・説明: 堆積地質学1990年代以降の進展とこれから: 特集号世話人
 - 2) 総説 スマトラ津波, 3.11東北沖地震津波と津波堆積物研究: 後藤和久・菅原大助
 - 3) 総説 実験堆積学と地層研究: 横川美和・成瀬元
 - 4) 総説 碎屑性堆積物の環境解析とシーケンス層序学: 保柳康一・伊藤 慎
 - 5) 総説 炭酸塩堆積物の成因・環境解析と地球史解明: 松田博貴・狩野彰宏
 - 6) 総説 現行堆積作用研究の地質学への展開: 池原研・斎藤文紀
 - 7) 総説 石油探鉱技術の進展と堆積学: 高野 修・荒戸裕之
 - 8) 総説 堆積岩岩石学, 新たな手法による新展開: 吉田孝紀・太田 亨
- 総説タイトルは, いずれも仮題です.

<p>印ページ数(見込み, 原則として80ページ以内, 最大でも100ページを越えない)</p>	<p>口絵 2ページ 1) 4ページ 2-7) 各12ページ×7本=84ページ 合計 90ページ見込</p>
<p>☑絵の有無(ある場合はそのタイトル, 著者とページ数. 原則2頁, 最大4ページ)</p>	
<p>その他(世話人から編集委員会へのコメント)</p>	<p>本特集号の予定しているスケジュールは以下のとおりです. 2017年9月初旬: 特集号編集委員会発足 2017年9月末: 原稿投稿完了 2017年 11月末: 初回査読完了 2018年3月末: 査読完了 2018年5月末: すべての修正完了</p>

原稿の形式は地質学雑誌の投稿規定に基づき, 日本地質学会編集委員会に原稿を提出する. ページ数については, 刷り上がり12ページまでを目安とする. ただし, 場合により最大14ページまで可能とする(要相談).

特集号タイトル	日本の古津波
特集号世話人氏名	高清水 康博・後藤 和久

特集号の構成(個々の論文の著者・タイトル・和文要旨・見込み印刷ページ数および著者の資格(会員・非会員))

- 1) 特集号の意義・説明: 津波堆積物研究の進展と展望(仮), 4ページ
高清水康博(会員, 新潟大)・後藤和久(会員, 東北大)
- 2) 総説 2011年東北地方太平洋沖地震による津波堆積物が明らかにしたこと(仮), 14ページ
菅原大助(会員, ふじのくに地球環境史ミュージアム)
- 3) 総説 北海道太平洋側の古津波堆積物研究(仮), 14ページ
高清水康博(会員, 新潟大)
- 4) 総説 東北地方太平洋側の古津波堆積物研究(仮), 14ページ
澤井祐紀(非会員, 産業技術総合研究所)*
- 5) 総説 東海・東南海・南海地震(九州を含む)の古津波堆積物研究(仮), 14ページ
藤原 治(会員, 産業技術総合研究所), 谷川 晃一郎(非会員, 産業技術総合研究所)
- 6) 総説 琉球列島の古津波堆積物研究(仮), 14ページ
後藤和久(会員, 東北大)
- 7) 総説 日本海東縁変動帯の古津波堆積物研究(仮), 14ページ
川上源太郎, 仁科健二(会員, 北海道総合研究機構)

* 澤井祐紀博士は, 地質学会の非会員ですが, 東北地方太平洋側の古津波堆積物研究の第一人者です。本特集号の構成のために必要であると判断しましたので, 執筆者としてお認めいただきたく考えております。よろしく願いいたします。
世話人 高清水・後藤

その他(世話人から編集委員会へのコメント)	本特集号の予定しているスケジュールは以下のとおりです。 H28年12月末:原稿投稿完了 H29年3月末:初回査読完了 H29年6月末:査読完了 H29年9月末:すべての修正完了
-----------------------	--

夜間小集会

- ・産学官の堆積学者の集い：明日の堆積学を担う若手研究者の育成プログラム（世話人：石原与四郎）

9/17（日） 18:15-19:45 第8会場

*台風のため中止になりました。予定されていたプログラムのみ次ページに掲載します。

- ・炭酸塩堆積学に関する懇親会（世話人：松田博貴）

9/18（月） 18:15-19:45 第6会場

夜間小集会 産官学の堆積学者の集い：明日の堆積学 を担う若手研究者の育成プログラム

日時：2017年9月17日（日） 18：15～19：45

場所：愛媛大学 共通講義棟A45 （日本地質学会
第8会場）

プログラム：

1. 経緯説明
2. 産官学連携やコンソーシアムにおける研究テーマ
設定や調整時の考え方について
3. 個別コンソーシアム準備状況および内容紹介
4. 双方向セミナー・技術討論会・コンソーシアムな
ど今後の展開についての自由討論

提案：部会活性化のためのホームページの活用 について（横川）

- 背景(1)日本では堆積学を専攻する若手が減少しており、これをなんとか増加傾向にしたいと考えています。
- 背景(2)現在の堆積地質部会は会員196名を擁し、専門部会の中でも5番目に大きな部会ですが、分野間の交流・情報交換が少ないように思います。
- 対策：地質学会に入会・会員登録をするときに専門部会を選ぶようになっていきます（複数選択可）ので、まだ専門分野を絞っていない学生会員に堆積地質部会を選んでもらえるようにする→地質学会の専門部会のページからリンクが張られている堆積地質部会のホームページを役立つ情報満載の魅力的なものにする。
- ホームページコンテンツの具体例：イベント情報（年会やスクール、講演会など）、勉強になる素材（招待講演のpdfなど）
- 情報提供のご協力をお願い：情報提供の受付は、当面部会長とさせていただきます。よろしくお願い致します。